

GPT-5.5 × 日本の知財実務：変革のロードマップと導入指針

GPT-5.5の基本スペックと知財実務への意義



100万トークン

長文コンテキスト

明細書、包摂資料、膨大な契約書束を一度に読み込ませ、矛盾や論点を横断的に抽出することが可能です。



推論特化型
「Thinking / Pro」

複雑な特許請求の範囲（クレーム）の解釈や、多ステップの論理推論を必要とする実務タスクで高い持久力を発揮します。



入力\$5 / 出力\$30

(100万トークンあたり)

GPT-5.5 Proはさらに高額ですが、知財実務では「AIのコスト」よりも「人手のレビュー時間削減」によるROIが支配的になります。

知財実務領域別のインパクト



特許ドラフティングの加速

発明メモから初稿、クレームツリー、実施形態、サポート要件表を自動生成し、代理人の構成案検討時間を短縮します。



先行技術調査の高度化

検索式の生成、抄録の比較、および日英中を跨ぐ同義語展開を支援。ただし、生成された文献番号の实在確認は必須です。⚠️



FTO（自由実施）の
一次スクリーニング

製品仕様の要素分解からクレームチャートの初編作成までを補助し、弁護士による最終判断の材料を整理します。

日本におけるガバナンスとチェックリスト



Model	Token Context	Reas. Type	Pricing	Purpose
GPT-5.5	1 Million Tokens	Thinking / Pro	\$5/\$30	High-Complexity IP Tasks
GPT-5.4	128k Tokens	Advanced	\$1.50/\$6	General IP Support
GPT-4.1	32k Tokens	Standard	\$0.75/\$3	Basic Research
Legal Wrappers	Various	Specialized	Custom/ Subscription	Compliance & Risk Management



著作権・営業秘密の保護

文化庁のガイドラインに沿い、学習段階と利用段階の論点を分離。機密情報は承認済み環境（Private Workspace）での運用を原則とします。⚠️

必須となる5つの監査ログ

- ✓ 案件ID、使用モデル、入力文書ID、生成物ハッシュ、レビュー
- ✓ 担当者の記録を残し、将来の紛争や誤引用に備えます。

導入ロードマップ（時間軸）



【短期】 補助者としての活用
明細書初稿、検索語生成、契約レビューの赤旗（リスク）抽出、証拠資料の時系列整理。



【中期】 根拠付き半自動化
自社専用RAG接続、出典強制テンプレートの導入、FTO一次チャートの半自動生成。



【長期】 監督下のエージェント
多法域ポートフォリオ分析、拒絶理由通知への応答作成支援、訴訟・ライセンスの総合支援。